

コメント

1. インフルエンザ

定点当り9.86人と週続けて減少しています。安芸区では31.0人と警報開始レベル(定点当り30人)を超えており、東区12.8人、南区10.8人と注意報レベル(定点当り10人)を超えています。

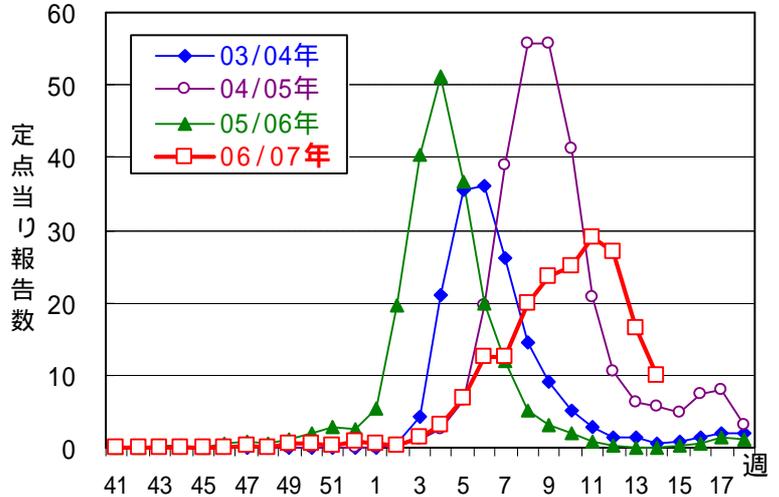
2. 感染性胃腸炎

定点当り8.08人とやや増加しています。安芸区では20.5人と特に多く、佐伯区12.7人、中区10.3人となっています。

3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当り1.42人とほぼ横ばいとなっています。佐伯区では5.0人と特に多く、安芸区3.0人、中区2.0人となっています。

インフルエンザ



5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号
インフルエンザ(注2)	365	9.86	1.60	↘	麻疹(注3)	-	-	0.03	
咽頭結膜熱	15	0.63	0.22		流行性耳下腺炎	8	0.33	1.24	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	1.42	0.97	↔	RSウイルス感染症	-	-	0.03	
感染性胃腸炎	194	8.08	9.94	↗	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
水痘	34	1.42	2.08	↘	流行性角結膜炎	10	1.25	1.00	
手足口病	4	0.17	0.22		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	3	0.13	0.19		無菌性髄膜炎	-	-	0.14	
突発性麻疹	10	0.42	0.84		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.17	
百日咳	1	0.04	0.04		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風しん	-	-	0.03		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	6	0.25	0.08						

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1.2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1.15～2の増減

微増減 ↔ 前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間(RSウイルス感染症は3年間)の同時期平均(定点当り)
 (注2)鳥インフルエンザを除く
 (注3)成人麻疹を除く
 (注4)オウム病を除く

1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	細菌性赤痢	1	2	男性(50歳代)・感染地域:国外
4	マラリア	1	1	女性(30歳代)・感染地域:国外
5	後天性免疫不全症候群	1	4	男性(30歳代)・無症候性キャリア

5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

報告数	定点当り	インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱 A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん	
																						第10週
広島市	第10週	921	16	28	227	31	1	10	13	1	-	1	-	8	6	1	4	-	-	2	-	-
	第11週	1,074	16	41	199	39	4	4	7	-	-	1	-	2	3	-	8	-	-	5	-	-
	第12週	997	5	46	168	29	2	5	11	-	-	-	-	2	4	-	6	-	-	1	1	-
	第13週	607	18	32	169	44	1	5	13	-	-	-	-	4	1	-	4	-	-	6	-	-
	第14週	365	15	34	194	34	4	3	10	1	-	6	-	8	-	-	10	-	-	-	-	-
広島市	第10週	24.89	0.67	1.17	9.46	1.29	0.04	0.42	0.54	0.04	-	0.04	-	0.33	0.25	0.13	0.50	-	-	0.29	-	-
	第11週	29.03	0.67	1.71	8.29	1.63	0.17	0.17	0.29	-	-	0.04	-	0.08	0.13	-	1.00	-	-	0.71	-	-
	第12週	26.95	0.21	1.92	7.00	1.21	0.08	0.21	0.46	-	-	-	-	0.08	0.17	-	0.75	-	-	0.14	0.14	-
	第13週	16.41	0.75	1.33	7.04	1.83	0.04	0.21	0.54	-	-	-	-	0.17	0.04	-	0.50	-	-	0.86	-	-
	第14週	9.86	0.63	1.42	8.08	1.42	0.17	0.13	0.42	0.04	-	0.25	-	0.33	-	-	1.25	-	-	-	-	-
全国	第12週	32.46	0.25	2.09	6.94	2.15	0.22	0.59	0.50	0.01	-	0.03	-	0.49	0.03	0.70	0.01	0.01	0.43	0.02	0.02	
	第13週	21.48	0.26	1.74	6.80	2.13	0.19	0.66	0.57	0.01	-	0.03	0.01	0.53	0.04	0.74	0.02	0.02	0.43	0.03	0.02	

(注1)鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

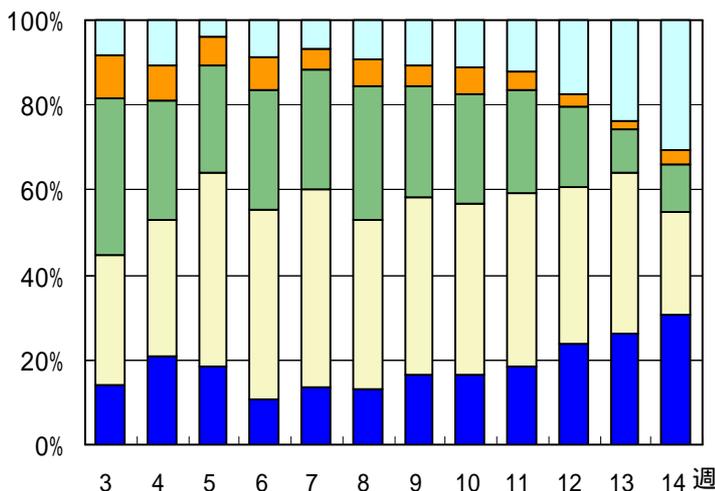
診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	8	男	2007/03/14	咽頭拭い液	インフルエンザB型
メタニューモウイルス感染症	2	女	2007/02/25	鼻汁(拭い液)	ヒトメタニューモウイルス
感染性胃腸炎	0	男	2007/01/09	糞便 鼻汁(拭い液)	コクサッキーウイルスB2型
感染性胃腸炎 痙攣重積	1	男	2007/02/20	糞便 鼻汁(拭い液)	アデノウイルス5型

インフルエンザウイルス検出速報

4月判明分 (検体採取日 2007年3月14日～3月23日)

	散発 (病原体定点より搬入)				集団かぜ				合計			
	Aソ連	A香港	B	散発計	Aソ連	A香港	B	集団計	Aソ連	A香港	B	合計
4月判明分	1	7	4	12	0	0	0	0	1	7	4	12
今シーズン計	5	36	29	70	0	0	5	5	5	36	34	75

【参考】広島市におけるインフルエンザの年齢階層別構成比の推移 (2007年第3週～第14週)



今シーズンのこれまでの累計では、主に小中学生の年齢層である5～9歳および10～14歳の年齢層の比率が高くなっています。

流行が始まった第3週以降について、5歳間隔の年齢階層別構成比の推移をグラフにしました。

流行がピークを迎えた第11週ごろから、5～9歳および10～14歳の年齢層の比率は低下し、4歳以下と20歳以上の年齢層の比率が上昇する傾向になりました。特に学校が春休み期間中である第13週から第14週にかけて、その傾向が顕著になっています。

しかし、インフルエンザはまだ終息しておらず、学校で新学期が始まると、再び感染が広がる可能性がありますので、引き続き手洗い・うがいの励行など、感染予防に心がけてください。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2007年第14週 (4月2日～4月8日)